

熊本高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	インターンシップ
科目基礎情報					
科目番号	0238		科目区分	専門 / 選択	
授業形態	実験・実習		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	機械知能システム工学科		対象学年	4	
開設期	集中		週時間数		
教科書/教材	無し				
担当教員	古嶋 薫,山下 徹,西村 壮平,村山 浩一				
到達目標					
1. 自分の進路を考えて実習先を選ぶことができる。 2. 与えられた仕事の内容と全体における位置づけを理解できる。 3. 協調性を持ちながら責任を持って作業を遂行できる。 4. 社会参加への意欲と関心を持つことができる。 5. 社会人となるための必要なマナーが身に付いている。 6. 実習内容について指定の書式に従って報告書を作成し、プレゼンテーションができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	(実習先の実施計画による)		(実習先の実施計画による)		(実習先の実施計画による)
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 4-3 学習・教育到達度目標 4-4 学習・教育到達度目標 5-2 学習・教育到達度目標 6-2					
教育方法等					
概要	インターンシップは、熊本高等専門学校の学生一人一人の勤労観、職業観を育てるキャリア教育の一環として、産業界並びに公共機関等において、自らの専攻や将来のキャリアに関連した就業体験を行うことを目的とする。				
授業の進め方・方法	インターンシップでは、本校の学業以外に、企業での就業体験を行う。受け入れ企業については、夏休み前に担任から連絡があるので、自分の進路を考えて希望する企業を選定する。実習期間は、原則として夏季休業中である。実習先では、日々の記録を取り、帰校後に、指定の書類を提出し、インターンシップ発表会を行う。 インターンシップの連絡は、担任を通じて行われる。例えば、各自で作業をする項目を並べると以下のようになる。 ○夏季休業前 ・インターンシップ受け入れ企業の発表 ・希望先の決定 ・書類の発送 ・実習期間の確認と決定 ○インターンシップ期間 ・移動に関する手続き（旅券の手配等） ・企業での実習 ・インターンシップ証明書の受領 ○夏季休業後 ・インターンシップ報告書の作成 ・書類の提出 ・インターンシップ報告会の準備/発表				
注意点	・移動に関する手続き等は各自で行うこと。 ・実習先に向かう前に、持参品のチェックを行うこと。（実習服などの確認） ・実習先で事故やトラブルがあった場合は、速やかに担任か本校の教務係へ連絡すること。 ・移動中や実習先では先方の迷惑にならないように本校の学生としての自覚を持って行動すること。また、安全については十分留意すること。 ・実習期間が5日以上で単位認定を行う。 ・成績評価は、次の事項について行う。 ○実習先からの評価（実習先からの評価が無い場合は担当教員で評価）・・・25% ○実習報告書による評価・・・50% ○実習報告会による評価・・・25%				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	(実習先の実施計画による)	(実習先の実施計画による)	
		2週			
		3週			
		4週			
		5週			
		6週			
		7週			
		8週			
	2ndQ	9週			
		10週			
		11週			
		12週			
		13週			
		14週			
		15週			
		16週			
後期	3rdQ	1週			
		2週			
		3週			
		4週			
		5週			
		6週			
		7週			
		8週			
	4thQ	9週			
		10週			

		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
分野横断的能力	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	自身の将来のありたい姿(キャリアデザイン)を明確化できる。	3 前1
				その時々で自らの現状を認識し、将来のありたい姿に向かっていくために現状に必要な学習や活動を考えることができる。	3 前1
				キャリアの実現に向かって卒業後も継続的に学習する必要性を認識している。	3 前1
				これからのキャリアの中で、様々な困難があることを認識し、困難に直面したときの対処のありかた(一人で悩まない、優先すべきことを多面的に判断できるなど)を認識している。	3 前1
				高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業や大学等でのように活用・応用されるかを説明できる。	3 前1
				企業等における技術者・研究者等の実務を認識している。	3 前1
				企業人としての責任ある仕事を進めるための基本的な行動を上げることができる。	3 前1
				企業における福利厚生面や社員の価値観など多様な要素から自己の進路としての企業を判断することの重要性を認識している。	3 前1
				企業には社会的責任があることを認識している。	3 前1
				企業が国内外で他社(他者)とどのような関係性の中で活動しているか説明できる。	3 前1
				調査、インターンシップ、共同教育等を通して地域社会・産業界の抱える課題を説明できる。	3 前1
				企業活動には品質、コスト、効率、納期などの視点が重要であることを認識している。	3 前1
				社会人も継続的に成長していくことが求められていることを認識している。	3 前1
				技術者として、幅広い人間性と問題解決力、社会貢献などが必要とされることを認識している。	3 前1
				技術者が知恵や感性、チャレンジ精神などを駆使して実践な活動を行った事例を挙げるができる。	3 前1
				高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業等でのように活用・応用されているかを認識できる。	3 前1
				企業人として活躍するために自身に必要な能力を考えることができる。	3 前1
				コミュニケーション能力や主体性等の「社会人として備えるべき能力」の必要性を認識している。	3 前1

評価割合

	実習先からの評価	実習報告書	実習報告会	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	25	50	25	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	25	50	25	0	0	0	100